

妙法蓮華經從地涌出品第十五

(地より湧き出る菩薩達)

(264 頁 9 行～271 頁 11 行)

爾の時に釈迦牟尼仏の分身の諸仏、無量千万億の他方の国土より来りたまえる者、八方の諸の宝樹下の師子座上に在して結跏趺坐したまえり。其の仏の侍者、各々に是の菩薩大衆の三千大千世界の四方に於て、地より涌出して虚空に住せるを見て、各其の仏に白して言さく、世尊、此の諸の無量無辺阿僧祇の菩薩大衆は何れの所より来れる。

爾の時に諸仏各侍者に告げたまわく、諸の善男子、且く須臾を待て、菩薩摩訶薩あり、名を弥勒という。釈迦牟尼仏の授記したもう所なり。次いで後に作仏すべし。已に斯の事を問いたてまつる。仏今之を答えたまわん。汝等自ら当に是れに因って聞くことを得べし。

爾の時に釈迦牟尼仏、弥勒菩薩に告げたまわく、善哉善哉、阿逸多、乃し能く仏に是の如き大事を問えり。汝等当に共に一心に精進の鎧を被堅固の意を発すべし。如来今諸仏の智慧・諸仏の自在神通の力・諸仏の師子奮迅の力・諸仏の威猛大勢の力を顕発し宣示せんと欲す。
(264 頁 9 行～265 頁 8 行)

その時に釈迦牟尼仏の分身で、無量千万億の他方の国土から来られた諸仏は、八万の諸々の宝石の樹の下の師子座の上に両足を組んで坐られていました。それらの仏の侍者は、各々に菩薩衆の集団が三千大千世界の四方において、大地から涌出して虚空にとどまっているのを見て、各々、その仏に向かって申されました。世尊、この諸々の数えられないほどの多くの数の菩薩衆の集団は、どこから来たのでしょうか。

その時、諸々の仏は、各々の侍者にお告げになりました。善き志を持つ者達よ、しばらく待ちなさい。弥勒という名の菩薩大士がいます。釈迦牟尼仏によって、私の後を次いで、未来に仏に成ることを予言されたお方です。その方が、既にそのことを釈迦牟尼仏に質問されたので、仏はもうすぐそれにお答えになるでしょう。貴方達も、これによって自分で答えを聞くことができるでしょう。

その時に釈迦牟尼仏は、弥勒菩薩にお告げになりました。よいことである、よいことである。阿逸多（弥勒の別名）よ、おまえはよくぞ仏である私に、この様な大事な事を問いました。おまえたちは、共に一心に仏道修行に専心する鎧をかぶり、堅固な心を起こすがよい。如来は今、諸仏の智慧と、諸仏の自在な神通力と、獅子がふるい立つような激しい勢いで物事に対処する諸仏の力と、諸仏の勇猛な大勢力とをはっきりと示しながら、述べ伝え示そうとされています。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく

当に精進して一心なるべし 我此の事を説かんと欲す 疑悔有ること得ることなかれ 仏智は思議し叵し 汝今信力を出して 忍善の中に住せよ 昔より未だ聞かざる

所の法 今皆当に聞くことを得べし 我今汝を安慰す 疑懼を懷くことを得ることなかれ 仏は不実の語無し 智慧量るべからず 得る所の第一の法は 甚深にして分別し亘し 是の如きを今当に説くべし 汝等一心に聴け (265 頁 8 行～266 頁 3 行)

その時に世尊は、重ねてこの意義を述べようとして、詩を説いて言われました

今こそ 努力して精神を集中しなさい 私はこの事を今から説明する 疑念や後悔がないようにせよ 仏の智慧は想像することもできない おまえ達は今信じる力を發揮して 善き心を持ち続けられるように努力しなさい 未だかつて聞いたこともない教えを 今こそ皆聞くことができるのだ 私は今おまえ達の心を安らかにして慰めよう 疑って不安に思うことがないように 仏は本当でないことは言わないし その智慧も想像することもできない 仏の得た第一の教えは 甚だしく深遠であり理屈で理解することはできない このようなことを今こそ説こうとしているのだ おまえ達は一心に聞くがよい

爾の時に世尊、是の偈を説き已って、弥勒菩薩に告げたまわく、我今此の大衆に於て汝等に宣告す。阿逸多、是の諸の大菩薩摩訶薩の無量無数阿僧祇にして地より涌出せる、汝等昔より未だ見ざる所の者は、我是の娑婆世界に於て阿耨多羅三藐三菩提を得已って、是の諸の菩薩を教化示導し、其の心を調伏して道の意を發さしめたり。此の諸の菩薩は皆是の娑婆世界の下の界の虚空の中に於て住せり。(266 頁 4 行～266 頁 9 行)

その時に世尊は、この詩を説き終わって、弥勒菩薩にお告げになりました。私は今この大衆の前において、おまえたちに告げましょう。阿逸多(弥勒の別名)よ、この諸々の偉大な菩薩大士達は、数えきれない程の人数で大地から涌出しました。おまえたちが未だかつて見たことも無い者達は、私がこの娑婆世界において阿耨多羅三藐三菩提を得たのちに、この諸々の菩薩達を教え導いて、彼らの心を鍛錬して仏道を行ずる心を起こさせたのです。この諸々の菩薩達は皆、この娑婆世界の下のこの世界の虚空に住しているのです。

諸の經典に於て読誦通利し思惟分別し正憶念せり。阿逸多、是の諸の善男子等は衆に在って多く所説有ることを樂わず。常に静かなる處を樂い勤行精進して未だ曾て休息せず。亦人・天に依止して住せず。常に深智を樂って障礙有ること無し。亦常に諸仏の法を樂い、一心に精進して無上慧を求む。(266 頁 9 行～267 頁 1 行)

諸々の經典を読誦し、精通し、思惟し、道理をわきまえ、正しく自分のものになっているのです。阿逸多(弥勒の別名)よ、この諸々の善き志を持つ者達は、皆と雑談することは好まず、いつも静かな所を好み、精神集中の修行に専心して、未だかつて休んだ事はありません。また、人間や天人の力や徳のあるものに依存したり、それに頼ったりもしません。常に深遠なる智慧を求め続けて、悟りの妨げとなるものもありません。また、常に諸々の仏の教えを求めて、一心に努力して、最高の智慧を求めるのです。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく

阿逸汝当に知るべし 是の諸の大菩薩は 無数劫より来 仏の智慧を修習せり 悉く是れ我が所化として 大道心を発さしめたり 此れ等は是れ我が子なり 是の世界に依止せり 常に頭陀の事を行じて 静かなる処を志樂し 大衆の憤鬧を捨てて 所説多きことを樂わず 是の如き諸子等は 我が道法を学習して 昼夜に常に精進す 仏道を求むるをもつての故に 娑婆世界の 下方の空中に在って住す 志念力堅固にして 常に智慧を勤求し 種々の妙法を説いて 其の心畏るる所無し 我伽耶城 菩提樹下に於て坐して 最正覺を成ずることを得て 無上の法輪を轉じ 爾して乃ち之を教化して 初めて道心を発さしむ 今皆不退に住せり 悉く当に成仏を得べし 我今実語を説く 汝等一心に信ぜよ 我久遠より来 是れ等の衆を教化せり

(267 頁 1 行～268 頁 1 行)

その時に、世尊は、重ねてこの意義を述べようとして、詩を説いて言われました。

阿逸多（弥勒の別名）よ 今こそ知るべきです この諸々の大菩薩は 数えきれないほどきわめて長い時間の間 仏の智慧を修習して来ました すべて私が教え導き 仏の悟りを求める心を起こさせたのです これ等はわが子です この世界に住んでいて常に衣食住に対する欲望を払いのけ煩悩を捨てて仏道を求める修行をして 静かな所を志向し 大勢の人ごみの喧騒を離れ 雑談に耽ることを好まみません このような諸子等は わが仏道の教えを学習して 昼も夜も常に雑念を去り仏道修行に専心し 仏道を追求するために 娑婆世界の 下の空中に存在して住している 志しも思いも堅固で 常に仏の智慧を心を尽くして求め 種々の優れた教えを巧みに説いて その心には畏れるところがありません 私は伽耶城の 菩提樹の下に坐り この上ない真の悟りを完成する事を得て この上ない教えを説き そしてこの者たちを教え導き 初めて仏道の求める心を起こさせました 今皆後戻りしない菩薩の修行の境地に留まり やがては皆仏と成るに違いありません 私は今こそ真実を話します あなた達は一心に信じなさい 私は遠い過去から これらの衆を教え導いてきました

爾の時に弥勒菩薩摩訶薩及び無数の諸の菩薩等、心に疑惑を生じ未曾有なりと怪んで是の念を作さく、云何ぞ世尊少時の間に於て是の如き無量無辺阿僧祇の諸の大菩薩を教化して、阿耨多羅三藐三菩提に住せしめたまえる。

即ち仏に白して言さく、世尊、如来太子たりし時、釈の宮を出でて、伽耶城を去ること遠からず、道場に坐して阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たまえり。是れより已来始めて四十余年を過ぎたり。世尊、云何ぞ此の少時に於て大に仏事を作したまえる。仏の勢力を以てや、仏の功德を以てや、是の如き無量の大菩薩衆を教化して当に阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめたもうべき。世尊、此の大菩薩衆は、仮使人あつて千万億劫に於て数うとも尽くすこと能わず、其の辺を得じ。斯れ等は久遠より已来、無量無辺の諸仏の所に於て、諸の善根を植え菩薩の道を成就し常に梵行を修せり。世尊、此の如きの事は世の信じ難き所なり。

(268 頁 2 行～269 頁 1 行)

その時に弥勒菩薩大士と無数の諸々の菩薩達は、心に疑惑を生じ、未だかつて無い事あると怪しんでこのように思いました。いかにして世尊は、少しばかりの間においてこのような数えられないほどの多くの大いなる菩薩達を、最高の悟りの境地へと入らせる事ができたのでしょうか。

そして（弥勒菩薩は）世尊に向かって言いました。世尊、如来は皇太子であられたときに釈迦族の宮殿を出て、伽耶城から遠くない道場に坐って最高の悟りの境地を成就されました。それ以来四十余年が過ぎました。世尊、どのようにこの少しの間に、大きな仏の仕事をなされたのでしょうか。仏の偉大なる影響力によってでしょうか、仏の積み重ねてこられた良き影響力によってでしょうか、この様な無量の菩薩衆を教化して、当に最高の悟りの境地を成就させられたのは。世尊、この偉大なる菩薩大衆は、たとえ人が千万億劫の間数えても数えつくす事はできませんし、その際限に達する事も出来ません。これらの人々は遠い過去から無量無辺の多くの仏の元において、数多くの善行を積み重ね、菩薩の道を成就し、常に清浄行を修してきました。世尊、この様な事を世間の人々が信じるのは難しいでしょう。

譬えば人あって色美しく髪黒くして年二十五なる、百歳の人を指して、是れ我が子なりと言わん。其の百歳の人亦年少を指して、是れ我が父なり我等を生育せりと言わん。是の事信じ難きが如く、仏も亦是の如し。得道より已来其れ実に未だ久しからず。而るに此の大衆の諸の菩薩等は已に無量千万億劫に於て、仏道の為の故に勤行精進し、善く無量百千万億の三昧に入・出・住し大神通を得、久しく梵行を修し、善能次第に諸の善法を習い、問答に巧みに、人中の宝として、一切世間に甚だ為れ希有なり。今日世尊、方に仏道を得たまひし時初めて発心せしめ教化示導して、阿耨多羅三藐三菩提に向わしめたりと云う。世尊仏を得たまひて未だ久しからざるに、乃し能く此の大功德の事を作したまえり。我等は復仏の隨宜の所説・仏の所出の言、未だ曾て虚妄ならずと信じ、仏の所知は皆悉く通達すと雖も、然も諸の新発意の菩薩、仏の滅後に於て若し是の語を聞かば、或は信受せずして法を破する罪業の因縁を起さん。唯然世尊、願わくは為に解説して我等が疑を除きたまえ。及び未来世の諸の善男子、此の事を聞き已りなば亦疑を生ぜじ。
(269 頁 1 行～270 頁 3 行)

例えば、ある人がいて、色美しく髪黒くして二十五歳の人が、百歳の人を指して、これはわが子であると言ひ。その百歳の人もまた少年を指して、これはわが父であり我らを生み育ててくれたと言ったとしましょう。この事が信じ難いように、仏もまたこのようです。仏が悟りを得られてから、実はそれほどの時間は経っていません。しかし、この大勢の菩薩達は、既に無量千万億劫において、仏に成る為の修行実践に努め雑念を去り修行に専心して、無量百千万億もの精神集中の境地に入り、出て、留まりの対象に集中して動揺しない状態によく入り、出て、留まり、大いなる神通力を得、長く清浄なる修行を修し、善く順次に多くの教えを修習し、問答に巧みであって、人々にとっての宝のような存在で、一切世間にとっても稀有な存在です。今日、世尊は、（ご自身が）仏の悟りを得られてから、彼らに悟りを得る心を起こさせ、教え導き、指導して最高の悟りの境地に向かわせたと言われました。世尊が、

仏に成られてから未だ久しくはないのにもかかわらず、このような大いなる善行をなされました。私達は、仏が相手に応じて説かれる教えと、仏が語られる言葉が、未だかつて虚妄であった事はないと信じていますし、仏はあらゆる事に悉く通じておられることも承知していますが、多く菩提心を起こしたばかりの菩薩達が、仏が世を去られた後に、この言葉を聞いたならば、場合によっては信じて受け入れる事が出来ず、仏道を踏み外すような行いをしてしまう原因やきっかけになるかも知れません。ですから、世尊、お願いですから、私達の為にの為に説明して頂き、私達の疑念を取り除いてください。そうすれば、未来世の多くの良き志を持つ者達が、この事を聞いたとしても、疑いを起こすことはないでしょう。

爾の時に弥勒菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

仏昔釈種より 出家して伽耶に近く 菩提樹に坐したまえり 爾しより来尚お未だ
久しからず 此の諸の仏子等は 其の数量るべからず 久しく已に仏道を行じて 神
通智力に住せり 善く菩薩の道を学して 世間の法に染まざる事 蓮華の水に在る
が如し 地よりして涌出し 皆恭敬の心を起して 世尊の前に住せり 是の事思議し
難し 云何ぞ信ずべき 仏の得道は甚だ近く 成就したまえる所は甚だ多し 願わく
は為に衆の疑を除き 実の如く分別し説きたまえ 譬えば少壮の人 年始めて二十五
なる 人に百歳の子の 髪白くして面皺めるを示して 是れ等我が所生なりといい
子も亦是れ父なりと説かん 父は少くして子は老いたる 世を挙げて信ぜざる所なら
んが如く 世尊も亦是の如し 得道より来甚だ近し 是の諸の菩薩等は志固くして怯
弱無し 無量劫より来 而も菩薩の道を行ぜり 難問答に巧みにして 其の心畏るる
所なく 忍辱の心決定し 端正にして威徳あり 十方の仏の讃めたもう所なり 善能
分別し説く 人衆に在ることを樂わず 常に好んで禅定に在り 仏道を求むるをもつ
ての故に 下の空中に於て住せり 我等は仏に従って聞きたてまつれば 此の事に於
て疑無し 願わくは仏未来の為に 演説して開解せしめたまえ 若し此の經に於て
疑を生じて信ぜざる事あらん者は 即ち当に惡道に墮つべし 願わくは今為に解説
したまえ 是の無量の菩薩をば 云何してか少時に於て 教化し發心せしめて 不退
の地に住せしめたまえる (270 頁 3 行～271 頁 11 行)

その時に弥勒菩薩は重ねてこの意義を述べようとして、詩を説いて言いました。

仏は昔釈迦一族から 出家してガヤの近く 菩提樹にもとに座られました それから
現在まで尚未だ長い時は経ってはいません この諸々の仏の弟子らは その数は計
り知れません 長い間すでに仏道を修行して 超人的な能力と知恵の働きを保持して
います よく菩薩の道を学びながら 世間の俗事に染まらない姿は (泥) 水から咲
く蓮の華のようです 大地から涌出して みな恭しく敬う心を起こして 世尊の面前
に立っています このことは思い図ることも困難であり どうして信じられよましょ
うか 仏が悟りを開かれたのは最近のことであり 悟りを成就させた者たちは非常に
多いのです 願わくは我々のために大衆の疑いを除き 本当のことを道理が通るよう
にお説きください 例えば若くて意気盛んな 年齢が二十五になった人が 百歳の子

の 髪が白く顔にしわがある人を指して これは私の所で生まれた子供だと言い 子もまたこれが父だと言ったとします 父は若くて子は老いている 世の中の人がこぞってこれを信じないように 世尊の言われることもこのようです 道を得てから今まで非常に近いではありませんか この諸々の悟りを求める修行者たちは 志が固く臆病でもなく 限りなく長い時間 菩薩道を修行しています 難しい問答も巧みにして その心は畏れるところがなく ものごとを気にしない心は定まって動じず 姿・形や動作が正しく威厳と徳があり 十方の仏の讃め賜れる者たちです 有能で道理をよくわきまえて説き 人ごみの中に在ることを願わず 常に好んで思いを静め心を明らかにして真正の理を悟るための修行を行います 仏道を求めるだけのために 娑婆世界の下の虚空の中に住んでいます 私たちは仏に従って聞き奉りました このことにおいて疑いはありません 願わくは仏 未来のために 説明して理解させてください もしもこの經典に対して 疑いを生じて信じられなくなる者は そのせいでこの世での過ちの報いとして 後に苦悩の世界に堕ちるかもしれません 願わくは今我々のために説明してください この計り知れないほど多くの菩薩達を どのようにして短い時間において 教え導き悟りを得ようとする心を起こさせ 仏道修行の過程ですでに得た境地から後戻りしない状態にさせたのでしょうか